

【研究ノート】

寓話
カラスの事情

増 田 辰 良

研究ノート

寓話 カラスの事情

増 田 辰 良

目次

第1話 カラスと人間との関係

第2話 カラスの健康診断

付記

参考文献

第1話 カラスと人間との関係

— 電線に初老の2羽のカラスが止まっている。その名はカラさんとスーさん。何やら四方山話を始めた。

カラ：やあ！ スーさん、こうしてこの場所で逢うのもしばらくぶりだね。元気になってたかい？ おや大丈夫かい？ 何んだか顔色が悪いし、羽にもツヤがないようだが。昔から、カラスの濡れ羽色といって、羽は真っ黒でツヤツヤしてないとさまにならないじえ。

スー：誰かとおもえば、カラさんじゃないか、元気だね、相変わらず声の調子もいいね。実は、このところ腹持ちがよくて、あまり飛び遊んでないし、ぼんやりしていることが多いんだ。

カラ：へえー、腹持ちがいい？ そりやあ、いけない。おれたちは特別な消化器官を持たないので、常に空腹を満たすよう何かを口に運ばなくっちゃならないはずだ

が。喰ったものは口から直通で尻からひり出す状態にしておかないと……腹が重いんじゃ飛ぶのもおっくうだろ？

スー：ああ、飛びたくないときもある。

カラ：俺なんかのべつ喰ってひり出しての繰返しさ。お頭も軽い^{つむ}が腹も軽い軽い。へっへっへっ。

スー：そのうえ、以前ほど食欲がわかないんだ。年齢からくる食欲減退かもしれないがね。

カラ：一度、医者に診てもらいな。早いにこしたことはない。最近じゃあ、医者のお腕もあがって、多くの病気も完治するそうさ。ES（胚性幹）細胞や iPS（人工多能性幹）細胞だけでなく STAP（刺激惹起性多能性獲得）細胞ってなものも造れるそうじゃないかあ。医学の進歩は無限だよ。でも、最後の STAP は怪しくて STOP した。へっへっへっ。

スー：診てもらいたいのだが、何か、重大な秘密をいとも簡単に暴露されそうで、医者だけは嫌なんだ。勘弁してくれ。

キーワード：カラス、人間、共存、健康診断

カラ：そりゃそうだあ。誰だって、医者には嫌だよな。俺なんか、あの白衣を見るだけで身震いしちゃうよ。せめて黒衣にでもしてくれりゃいいんだが。ちっと待てよ。はあーはあー、スーさん、いつも飯はどこで摂っている？

スー：たいていは国道12号線沿いのガードレール横にある「パチンコ百発百中」の角にあるゴミ箱だね。どうかしたかい？

カラ：そうかあ、百発百中の角かあ。ここからは至近距離だな。……待てよ、原因はそれだな。あそこはいけない。簡単にゴミ袋を突き破ることができるし、仲間の数が少なすぎると聞かじえ。単純労働、短時間で多くのご馳走を一人占めできるそうじゃないか。そのうえ、あのゴミ箱には居酒屋「酔いカラス」とスナック「濡れカラス」が出したご馳走が山のように並べられているだろ。メインディッシュはてんぷら、さしみ、おた串、とり串で野菜はほとんど出てこない、という噂を耳にしたことがある。とくに鳥が「とり」を食っちゃいけないねえ。仁義に反するってことだ。これも聞いたところによると、^{くちばし}嘴ですすれるほどの日本酒、ウイスキーもあるそうじゃないか。そんなものばかり食って飲んで、おまけに運動不足とくりゃあ、肥満、高血圧、高脂肪の生活習慣病に罹るのもっともだ。あそこを利用して若いやつらの中には医者通いをしているものもいるそうだ。やはり、鳥であるからには1日に1時間以上の運動が必要だろうよ。この分じゃあ、おれたちの社会でも定期的に健康診断を受けるルールを作る必要があるかもしれないねえ。

スー：おい、あまり脅さないでくれよ。そんなに説教されて俺たちは雑食だよ。俺がなにを喰おうと、♪おいらの勝手にしよう♪

カラ：勝手は勝手かもしれないが、そのことを深く深〜く考えないといけないよ。雑食でえーのは偏食ではないということだろ。種類にこだわらずまんべんなく喰やあ高血圧、高脂肪にもならない。また別のご馳走を探して飛べば運動にもなって肥満も解消される。苦勞せずにご馳走が手にはいるようになったのはありがたいことだが。それにしても近頃じゃあ、ミミズ、セミの幼虫や野ネズミを喰ったことがないという若いヤツもいるそうじゃないか。俺たちの食文化も大きく様変わりしたもんだ。豪華なところで、京都じゃあ小料理屋の裏で湯葉^{ゆば}という高価な京料理をいただいている仲間もいるそうだ。俺だってえ、いっぺんでいい喰ってみたいー。

スー：さらに、お座敷遊びもしてみたいー。

カラ：んんっ。そういえば、先日、ご馳走の奪い合いでケガをした仲間が治療費と慰謝料を求めて提訴したようだじえ。

スー：いつ？ どこで？ 誰と誰が？

カラ：えーっ。知らないのかよ？ 脳天気だなあ。3週間前の月曜日だ。あんたの行きつけの居酒屋「酔いカラス」のゴミ箱近辺さ。前の日曜日に披露宴の二次会が行われたようで、そこでご馳走の鯛^{かしら}が出されたようだ。これがお頭つきときた。

スー：いつも月曜日は朝寝坊しているんだ。お天道様が真南に来る頃、目を覚ますんだ。そういやあ、夢の中で救急車の音やら野次馬の声がして騒々しかったようにも思うな。

カラ：まあ、当事者たちはAとIだよ。いの一番にAが鯛を嗅ぎわけ袋から引張り出し突き始めたんだ。

スー：A といやあ、隣街に住む若造じゃねえかあ。あいつは喧嘩っ早いつて聞いているよ。俺の縄張り^{ぬすつと}にまで来ていたのか？ ああ盗人^{ぬすつと}やろうが。

カラ：そうだと。これを朝の散歩途中だったIが目ざとく見つけ急降下して、奪おうとしたんだ。なにしろ、鯛のお頭つきなんて、そうそう喰えるもんじゃないからな。慌てたAはお頭を銜えたまま近くの電線に飛び乗ったのさ。それをホバリングしたまま下からIがAの真っ黒な足を右と思えば左、左と思えば右というように突いたんだ。堪ったもんじゃない。Aはおもわず嘴を開けてしまったのさ。その瞬間、お頭は空を舞い、それをIがナイスキャッチした。さあ、鯛を横取りされたAの怒りは心頭に達したな。おまけに喧嘩好きだ。上空からIの右肩、ちょうど羽の付け根をめがけて嘴もろとも急降下し、見事、命中したんだ、これが。Iは鯛を銜えていたぶん、自分の頭が下がりぎみだったんだな。上からくる羽音には油断をしてしまったようだ。全治5週間の入院よ。かかった治療費が10万円ときた。

スー：それで鯛はどうなったのかね？

カラ：何ィ！ スーさん、鯛に興味があるのかよお。鯛はそのまま地上へ落下した。そして運悪く薄汚いドラ猫に持っていつてしまわれたんだ。だから食い物で喧嘩をしちゃあいけないって、親父もお袋も、ご先祖様も言ってたよな。大怪我はするわ、訴訟沙汰にはなるわ、おまけにご馳走は猫に持っていかれるわ、仲間内で喧嘩をするとろくなことにしかない。

スー：裁判には時間がかかるんだろ、それに金もかかるよな。

カラ：ああ、そうだと、かかるよ。でも仲間が団結しなきゃならないご時世において、とんだ訴訟ざたが持ち上がったので、裁判所もIの訴えを即刻、受理し審理を始めるようだ。表面上、2羽とも大いに反省はしているようだが、どちらが加害者なのか被害者なのか、というところか

ら揉めているようだ。まったくもうー。

スー：えーっ。訴えたIが被害者、つまり原告だろ。訴えられたAが加害者、被告だろ。どうもわからない。どういうことだよ。

カラ：そうだな。裁判というのは、まず、被告の行為の是非が問われるな。そもそも自分の所有物でないものを手に入れたときに他の者に横から奪われそうになったからといって、その当人を傷つけてもいいという法はない。しかし、おれたちの社会では、ご馳走を最初に胃の中へ入れた者がそれを消化する権利をもっている。その権利が侵害されそうになったから、AはIを攻撃した。だから、他の者を傷つけることは不法だが、権利を死守するために傷つけたことは正当であろうと。よってAの行為の是と非がはっきりしないんだ。次に、Iの原告適格性といって、Iは本当にAを訴えるに値する当事者なのか、が問われるんだ。そもそもIはAのご馳走を横取りしようとしてAから攻撃され、傷を負ってしまったのだから。最後に、原告適格性と傷害の因果関係が問題となるが、IはAの攻撃によって負傷したのだから、Iの原告適格性が認められれば、因果関係ははっきりしている。裁判は始まったばかりだが、裁判官はAの行為の是非、Iの原告適格性を考慮して判決を下すことになる。その際、昔と違って俺たちの社会も共同性、いや協調的と言った方が分かりやすいが、その協調的な社会から競争的な社会へと変化しつつあるので、この社会の風潮の変化を裁判官がどう判断するかが判決の行方を左右すると言われている。心証形成ってやつだ。誰かが間に入って和解をするという手もあるんだが。なんとか、穏便に済んでくれればいいがね。仲間内で喧嘩をするような余裕のある状

況ではないんだがね。

スー：そりゃ、昔もご馳走の奪い合いをしたが、入院治療をするような喧嘩にはならなかったよな。でも素朴な疑問だけど、ゴミ箱の中にあるお宝の所有権は誰に帰属するのかな？ 公共機関が設置しているゴミ箱であれば、その中身は公の所有物になるの？ 捨ててある物だから誰にも所有権は帰属しないの？ 捨てた物にも所有権の帰属先が確定しているのであれば、俺たちは横領をしていることになるな？ 捨ててあるのだから、所有権は放棄したとみなせるのかな？ 考えると頭がこんがらがるよ。も～、判らん！ どちらにしろ、裁判は長引いてほしくないね。

カラ：そりゃそうだ。ところで、先日、2つ向こうの町で開催された「全日本カラスを守る会」に出席してみたんだが、何やら物騒な時代になっているようだじえ。今回の主要な議題は人間たちが俺たちの数が増えていることに恐れを感じて、いろいろと撲滅作戦、掃討作戦を水面下で実行しているそうで、それにどう応戦するかということだったんだ。確かな証拠は掴んじゃいないが、すでに何かが仕掛けられているようだ。仲間内で喧嘩なんかしている暇はないよな。まったく。

スー：撲滅、掃討作戦といえば、かつてゴミ袋に網を掛けたり、光り物を吊るしたり、俺たちの張りぼてを立てていたこともあったよなあ。あれには晒^{わら}っちゃたぜ。人間の脳ミソなんて小さいものだと仲間内で馬鹿にしたもんだ。俺なんか空爆で糞尿を落としてやったよ。見事、命中したさ。その後、俺たちが黄色いものが嫌いだというデマが流行って人間たちはゴミ袋を黒や透明のものから黄色に変えやがった。どこの誰が黄色を嫌っているんだ！ 俺らは大好きだよなあ。本当に人

間の考えは浅はかってもんだ。人間の知恵の悲しみってとこかな。黒にしようが黄にしようが、俺たちはすぐに学習しちまった。大きな声では言えないが、俺たちが本当に嫌っているのはフクロウやハヤブサなどの猛禽類だよな。あいつらには適わない。俺らよりもはるかに賢くて獰猛なもの。

俺たちが若い頃は、人間もゴミ袋を電柱の根元に無造作に置いておくだけだったが、最近じゃあ、金属製の立派なゴミ箱まで作りやがった。あの頃は、人間にも清貧の思想があり、ご馳走を袋に入れてくれるだけの余裕はなかった。それにしてもゴミ箱の数も増えだし中身もずいぶん豪華になったもんだ。……それはさておき、カラさん、守る会では現状をどう分析しているのかね？ 人間の作戦を。

カラ：これがよう、驚き桃の木山椒の木よ！ すでに人間は次なる作戦を実行しているようだ。守る会によると、作戦は2つ実行されているそうぞ。びっくりして、座り小便を垂れるなよ。俺たちは喰われているんだ。茨城県のある地域に住む人間たちは俺たちの仲間を喰っているそうだ。仲間たちは戦後間もない頃から喰い続けられてきたそうだ。今じゃ、地域の特産品にしようという動きにまでなっているじえ。

スー：ああ、それは聞いたことがあるよ。身の毛もよだつ殺戮^{さつりく}だ。

カラ：俺たちの胸肉はさしみにされ、脚は焼き鳥に調理されるそうだ。俺たちは健康のために何でも食べる雑食だけど、特に茨城県のひたちなか市に住む仲間たちは植物性の食事を摂ることが多く、臭みが少ない肉質だそうだ。それが人間に好まれているということだ。ふん。

スー：なぜ、ひたちなか市の仲間たちは雑食

というよりも植物性の食事を摂っているんだよ？

カラ：それは、この市は「干しいも」の産地だそうで、蒸したさつまいもの皮が田畑に大量に捨てられて、仲間たちはそれを喰っているかららしい。

スー：人間も雑食で、何でも喰うから毎年、きっと多くの仲間たちが犠牲になっているんだろ？

カラ：ああ、そうだと。2011年度には、狩猟目的で捕らえられた仲間が4628羽もいたそうだ。

スー：そっ、そんなに喰われているのかあ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、ア～メン、ラーメン喰いたい。

カラ：んんっ。それに、今じゃあ、俺たちを喰う料理が流行しつつあるそうだ。確か、ジビエ（野生鳥獣）料理って呼ばれているよ。ヨーロッパじゃあ、1900年代初めまで料理されて、そのレシピ集もあるそうだ。例えば、パイとしてフライパンで表面を焼く「ポアン」という調理法があったそうぞ。日本でも現在、ミートパイの材料にされているんだ。

スー：人間はどこまでも俺たちをいじめるよな。（この部分は『朝日新聞』朝刊、2014年4月5日、土曜日参照。）

カラ：2つ目は俺たちの食欲に目をつけ、エサでおれたちを釣ろうとしている。まるで俺たちを魚扱いしやがって。こんちくしょう！ 最近、いとも簡単に、ご馳走が手に入るのはこの作戦の一つかもしれないんだ。人間はうまく考えやがって、俺たちを生活習慣病に罹らせて寿命を縮めようという魂胆なんじゃねえか、という結論だ。まったく人間も悪知恵だけじゃ働くようだぜえ。ご馳走に毒がもられていないだけ、まだましだというヤツもいるがね。どうだかなあ。

スー：俺たちの父親も母親もその爺さんお婆

さんもみんな老衰で天寿をまっとうしたよな。ピンピンコロリってやつだ。理想的な逝きかただよ。

カラ：さて、俺たちの世代はどうか？ ましてや子や孫の世代となると……。

スー：俺は人間に飼い殺される運命なんて絶対に絶対に嫌だね。でも、どうやって飯の場所を確保すればいいのやら……。

カラ：早い話が昔のように自然に戻ればいいんだ。住む所をガード下から森や山へ引っ越せばいいんだ。昔からカラスは森や山を^{ねぐら}としてきたんだから。

スー：森といえば、人間が住む家を作るために木々を伐り倒したので、俺たちはさらに森の奥へ移動させられたよ。おかげで街までの距離が遠くなってしまった。若いヤツらはこの遠距離通勤を嫌っているそうだ。途中で息切れするヤツもいる、と聞け。

カラ：食べ物も自然食品に戻せばいいんだ。今じゃ、無農薬農法が主流になって畑や田んぼにもミミズ、ドジョウなどが増えつつある。あの絶滅危惧種だったトキも自然の中に戻ってきたじゃないか。俺たちにできない訳がない。

スー：自然への回帰か。俺たちの世代はまだ狩猟経験があり、何とかしのげるが、若いヤツらはどうするのかね。人間に飼い馴らさればなっしじゃねえか。夜の森はシーンとして怖いというヤツもいるそうだ。ネオンサインを見ないと寝付けないヤツもいるという噂だぜ。カラオケを子守歌にしている若造もいるそうだ。伝統的な食事メニューも病院飯だといって見向きもしないんだろ。先日車に撥ねられた野ネズミを見て、反^へ吐が出るなんていつて目を背けていたヤツがいた。結局、どうすればいいんだ。俺たちは。

カラ：俺が思うには人間と共存共栄して行くしか手はないということだ。そのために

はお互いにルールを尊重し合うことだな。例えば、人間はご馳走を粗末にしないこと、残飯など作らない、出さないことだ。そうすりゃ俺たちだってゴミ箱をスルーするだろ。

スー：じゃあ、俺たちはどんなルールに従えばいいのだ。

カラ：やはり街から森への生活に戻るんだよ。たまには街へも行って人間社会の変貌を観察することもいいだろう。せいぜい人間が掘り起こした畑にいる生き物を頂くくらいは許されるだろ。ただし人間が丹精を込めて作ったピーターコーンや真っ赤に熟れたトマトなんかには手を出しちゃいけない。これらを失敬して得意になっているようではカラスの風上にもおけない。大いに反省しないとね。要するに、お互いがかつてのように尊重し合って相手の領域へは入って行かないようにするしか解決策はないだろうな。

スー：これを次回の「守る会」の議題として提案してはどうかね。議題は『カラスと人間の友好関係を回復する方策について』でいいだろう。人間にも参加を呼びかけるよう議長に伝えてくれないか。俺も他の仲間を誘って、必ず出席するよ。

カラ：その前にあんたはドックにでも入って、健康診断を受けるのが先じゃないのかね。スーさん、どうもあんたのどす黒い顔色といまにも雨が降り出しそうな曇った目玉が気になるよ。それに昼過ぎまで寝ているというのは尋常じゃないね。どんな鳥も早起きするもので、一番鳥ってという言葉があるくらいだからよ。じゃ、またなー。

— カラさんは勢いよく飛び立った。

第2話 カラスの健康診断

— 人間が受診する健康診断の方法に人間ドックがある。これは身長、体重、検眼、聴力から始まって血液検査、心電図、内臓のエコー検査、肺や胃のレントゲン検査を流れ作業のようにして、身体に関する基礎的なデータを収集する方法である。これによって身体内の異常な箇所を見つけたり、健康度を測る予防医療の一つである。この検診は国が定めた検査方法、検査項目を満たしていれば病院やクリニックでも受けることができる。

飽食の時代になってカラスにもこの予防医療を受診することが義務付けられた。スーさんは勇気を振り絞って検診を受けるために「明けカラス・クリニック」へ出かけた。予約時に送られてきた検便と検尿のための「ぶつ」が入った容器を手にとって。こんなぶつを持ち運ぶのは幼鳥のときに受けた健康診断以来の体験であった。

スー：おはようございます。先月の12日に予約をしたスーです。

受付嬢：おはようございます。「パチンコ百発百中」の近くにお住まいのスーさんですね。お待ちしております。お待ちいただいた便とお小水の容器をこの台の上に置いてください。次に、ロッカールームで受診用の服装に着替えて、お名前が呼ばれるまで控え室でおくつろぎください。

— ロッカールームに入ると、友人のカラさんが丁度着替えをしていた。スーさんに気づいて、声をかける。

カラ：やあ、スーさん。とうとう来たね。

スー：ああ、カラさん。おはよう。このところ体調があまりすぐれないので思い切っ

て来てみたよ。昼前には終わると聞いたのでね。あんたからも忠告、いや脅されたしね。カラさんは毎年来ているのかい？

カラ：そうだよ。30歳になった頃から毎年、受診しているよ。病弱だった母親の体質に似て健康にはあまり自信がもてないのね。

スー：えらいなあ、カラさんは。俺なんか20歳のときに健康診断で胃のバリウム検査を受けてから一度も医者に診てもらったことがないよ。検査されること自体が怖くて嫌だったんだよな。

カラ：大丈夫だよ。流れ作業のように検査は進むので、あ〜あとと言う間に終わるよ。それに今日は受診者数も少ないようだしね。

スー：（まわりを見回してから）それにしてもここに居る皆は病人のような表情でだらんとしているね。無気力って感じかな。脱力してるね。

カラ：あたりまえだよ。今日は血液検査と胃のバリウム検査があるので、昨夜は7時以降、水しか口にしていないのだから。スーさんもそうだろう。

スー：ああ、そうかあ。でも、俺なんか2〜3日食べなくても平気だよ。その分、普段から体脂肪をきっちり付けているから。そんな話ではないか。あはっはっはっ。

— そうこうしているうちに受付嬢のアナウンスがはいる。

受付嬢：受診される方は受診室へお入りください。

カラ：さあ、行きますか。その内、都合がつけば、また話そうや。俺は総合検診を受けないで帰るから。

— スーさん、カラさんはじめ他のカラスも

受診室へ入る。受診の順番は受付をした順番になっているので、2羽は別々に呼ばれた受診室へ入っていく。スーさん、最初は血液検査である。

血液検査係：スーさん！ 血液検査室へお越しください。

スー：はい！

血液検査係：スーさんですね。（検診表を見せて）お名前をご確認ください。間違いないでしょうか？ はい、それでは血液を採取しますので、右脚をここに乘せて、親指にぐっと力を入れて握ってください。はい、それでは針を刺しますよ。チクッとしますが我慢してくださいね。

— 注射針の大嫌いなスーさんは顔を横に向け、目を固く閉じたまま眉間に深い皺を寄せ、口をへんの字に結び鬼の形相になっている。スーさんはとても長い時間が過ぎたように感じた。

血液検査係：はい、終わりましたよ。（止血をして）ここをしばらく押さえておいてください。次は視力検査ですから、5番の検査室前のソファにかけてお待ちください。

視力検査係：スーさん！（検診表を見せて）スーさんですね。この位置に立って、右目から検査しますので、これで左目をふさいでください。私が指示をした文字を読んでください。

— スーさんは渡された小さなしゃもじのようなものを左目にあてる。

視力検査係：では始めますね。これを読んでください。

スー：はい。□。□。□見えません。

視力検査係：これはどうですか？

スー：「イ」。「カ」。「？」ええ、見えません。「ラ」ですか？

視力検査係：はい。では、これは見えますか？

スー：「ス」かな。「ト」ですか？「シ」ですかね。

視力検査係：はい。右眼は0.7ですね。じゃあ、次に左目を測ります。右目をふさいでください。はい、これを読んでください。

スー：「？」見えないです。「オ」。「？」これも見えないですね。「？」これもだめです、これはさっきのと同じなので「イ」。え～と、これは「テ」ですね。

視力検査係：こちらは1.2ですね。じゃあ、念のため両目でも測ってみましょう。はい、これは見えますか？

スー：「ヨ」です。次は「ク」です。それから「ミ」です。「？」これは見えないなあ。

視力検査係：それでは、これはどうですか？

スー：「エ」ですか。「？」これは見えません。「？」これも見えません。ああ、これは「ナ」です。

視力検査係：最後に、これはどうですか？

スー：またまたさっきと同じなので「イ」です。

視力検査係：はい、そうです。両目では1.0ですね。それでは次に3番で心電図を撮ってください。

— スーさん自覚しているのか、1.0と診断されて少ししよげながら3番へ向う。

心電図係：スーさんですね。（検診表を見せて）お名前を確認してください。はい。間違いないですね。では、ここに仰向けになってください。何力所か、器具を付けますね。

スー：（心臓の辺りと両方の足首に器具を付けられる。不安な声で）これって電流を流すのですよね？

心電図係：はい。弱～～い電流ですから、大丈夫ですよ。心配ご無用です。

スー：感電しませんか？

心電図係：大丈夫ですから。この検診で死ん

だ方はいませんよ。医療器具ですからね。

スー：……。

心電図係：じゃ、はじめますので、じっとしててください。（カチカチと器具の音がする）はい～。終了です。器具を外しますね。次はエコー、超音波検診を受けてください。4番の辺りでお待ちください。

— スーさんは4番の窓口前のソファに座る。

エコー係：スーさん！（検診表を見せて）ここに仰向けになっていただけますか。

スー：また、仰向けですか？

エコー係：はい。内臓の検査ですからね。お腹に検査用のジェリーを塗りますね。少し、冷たいですよ。我慢してくださいね。

スー：ホッホッホッ、ハッハッハッ、くすぐったいですね。ホッホッホッ。

エコー係：そうですね。しばらく我慢ですよ。では検査しますね。最初は肝臓から診ますね。ちょっとくすぐったいですよ。我慢ですよ。お腹を膨らませて～、息を止めて～、はい、いいですよ。次は脾臓を診ます。お腹を膨らませて～、息を止めて～、ください。はい、楽にしてください。

スー：ホッホッホッ、ハッハッハッ。すみません。くすぐったいです。

エコー係：（怒った声で）我慢してくださいね。バタバタと動かないでくださいよ。今度は背中から腎臓を診ますね。身体を横にしてください。はい、少し我慢してくださいね。お腹を膨らませて～、息を止めて～、……はい、終わりました。ジェリーを拭き採りますね。は～い、ごくろうさまでした。次は、肺活量の測定です。6番付近のソファにかけてお待ちください。

肺活量の係：スーさん！（検診表を見せて）はい、スーさんですね。肺活量を測りますね。これを軽く口にくわえてもらって、

私の指示にしたがって息を吸ったり、はいたりしてください。では、はい、最初は少し吸って、吸って！ 少しはいて、はいて！ 次に、はい、大きく吸って、吸って、もっと吸ってー！ はい、一気にはき出しましょう。

スー：はあ、はあ、は～あ、は～あ。

肺活量の係：ああ、だめです。うまくいかなかったですね。少し、息がもれましたね。もう一度、やり直しましょう。このモニターのように山と谷がこんなふうに出るといいのですが……。

—（数回、試みたがうまくいかなかった）
スーさんは吸って、吸って～、はいて、はいて～の連続でもはや顔を真っ赤にし、右目の目尻にはうっすら涙がにじんでいます。

肺活量の係：大丈夫です？ 始めてよろしいです？ はい、では先ほどと同じように、これを軽くくわえてください。もれないようにしてくださいね。今回で最後にしましょう。頑張ってください。はい、それでは最初は少し吸って、吸って、吸って～、吸って！ はい、少しはいて、はいて、はいて～、はいて！ では次に、もらさないように、はい、大きく吸って、吸って～、吸って～、吸って～！ もっと吸って～！ もっともって吸って～！ は～い、一気にはき出しましょう。はいて、はいて、はいて、はいて～！ もっとはいて～！ もっともってはいて～！ ふう～。ああ、今度はうまくできましたね。

— スーさんはほとんど酸欠状態です。両目は真っ赤に充血してしまいました。そして、疲れきったような顔をして、はっきりと流れる1本の涙を左足の指先で拭きました。

肺活量の係：大丈夫ですかね？ スーさん、ごくろうさまでした。次は8番で聴力検査を受けてください。（スーさんがボーッとしているので）8番です。8番ですよ。

— ソファでしばし鋭気を養っていると、聴力係がスーさんの名前を呼ぶ。まさに流れ作業である。休憩もままならない。

聴力の係：スーさんですね。（検診表を見せて）間違いないですね。それでは、このボックスに入って、ここに座ってもらって、ヘッドホンを付けてください。音を出しますから聴こえたら、このボタンを押してください。聴こえたら押すんですよ。では、右耳から測りますね。

ツー、ツー、ツー、ツー、「カチ」
チイー、チイー、チイー、チイー、
チイー、「カチ」
ブー、ブー、ブー、ブー、ブー、「カチ」
ピー、ピー、ピー、ピー、「カチ」

— これは音が聴こえるとすぐに押せば聴力は高いと判定される。ツー、ツー、ツー、ツー、「カチ」よりもツー、「カチ」がいいわけです。どうもラスさんはこの要領を知らなかったようで、少し反応が鈍かったようです。

聴力の係：はい、終わりました。

スー：どうですか。十分、聴力はありますか？

聴力の係：ああ、検査結果は後でご希望すれば、総合検診の担当医より説明がされると思います。そこで詳しく、お訊ねください。

スー：そうですか。ちょっとくらい教えてくれてもいいじゃないですか？ もう結果は出ているのでしょ。あなたにも判るのでしょ。へっへっへっ。

聴力の係：ここでは教えられません。検査の
みの担当ですから、総合検診でご確認く
ださい。

スー：(不満を顕わにして)判りましたぁ。(小
声で) ケチ。

聴力の係：それでは、次は肺のレントゲンで
すから7番へお進みください。

肺のレントゲン係：はい、スーさんですね。
(スーさんの顔と検診表を交互に見て)
スリッパを脱いで、ここに立って、胸を
しっかり着けてください。顎はここに乗
せて引いてもらって、両手は腰の辺りに
してください。はい、それでは撮ります
ので、息を大きく吸って、吸ったらしっ
かり止めてください。身体を動かさない
でくださいよ。動かさないでくださいね。
はい、撮ります。は～い、終わりました
よ。楽にしてください。次は、最後です
ね。胃のバリウム検査になります。10番
の窓口の前のソファでお待ちください。

— スーさんはソファで週刊誌をめくりなが
ら、若い頃に呑んだバリウムのことを思い
出していた。決して、楽しい思い出ではな
かったようだ。

バリウム検査係：(検診表を見せて) スーさ
んですね。これまでにバリウムを飲んだ
ことはありますか？

スー：はい、20歳の頃に一度飲んで検査を受
けたことがあります。美味しくなかった
ですね。

バリウム検査係：胃について、どこか気にな
るところはありますか？

スー：はい、この辺りに潰瘍があると言われ
たことがあります。

胃の検査係：判りました。では、そのあたり
をよく診てみましょう。バリウムを飲む
前に、咽喉を麻痺させますので、これを
一気に飲んでください。ゲップが出そう

になっても我慢してください。我慢です
よ。

— スーさんは飲み終わって、少しゲップが
出そうになった。その表情を見て、

胃の検査係：(怒った声で) ゲップをしては
ダメって言ったでしょ。胃の中に気泡が
できてうまく撮れないんです。

スー：いいえ、していません。絶対に。誓い
ます。すみません。

— 心の中でスーさんはなぜ俺が叱られなき
ゃならないんだ、謝らなければならない
んだ、と憂鬱な気分になる。

胃の検査係：そうですか、判りました。それ
ではスリッパを脱いでこの台にこちらを
向いて立ってください。バリウムの入っ
たコップを右手に持ってください。私が
指示したとおりに身体を動かしてくださ
い。

— 胃の検査係はガラスの部屋へ移動し窓ご
しにマイクでこちらに指示を出します。

胃の検査係：最初に、咽喉のレントゲンを撮
りますから、ごくごくと半分ほど飲んで
ください。ごくごくと……。はい、いい
ですよ。では、残りを全部飲んでくださ
い。飲み終わった容器は横のカップ受け
に入れてください。口元はティッシュで拭
いてください。拭き終わったら、カップ
に入れてくださいね。それでは始めます。
私の指示に従って身体を動かしてくださ
いよ。いいですね。まず仰向けになって
ください。

胃の検査係：はい、撮りますよ。じっとして
いてくださいよ。動かないでそのまま。
はい。よろしいですよ。次は身体を右に

90度だけひねってください。……？ それは左ですね。右，右です。右に90度……。 (スーさんは右，左に混乱してしまう。頭の中で方角を描く) はい。そうです。それが右です。お箸を持つ脚ですね。覚えておきましょう。では，撮ります。はい。楽にしていますよ。それではですねえ，今度は身体を一回転させてください。はい，いいですね。次に身体を横向きにして，はい，大きく息を吸って，はい止めて……。はい，楽にしてください。今度は背中をこちらに向けてください。大きく息を吸って，止めて……。はい，楽にしていますよ。次に，斜め45℃くらいに身体を傾けてください。はい，もう少しだけ傾けましょうか。はい，そのままにして動かないでくださいよ。大きく息を吸って，止めて……。はい，次で最後です……身体をもう少しひねってください，もう少しですね，はい，いいですよ。そのままにして，そこで大きく息を吸って，止めて……。はい，終了です。お疲れさまでした。

— 検査係が検査台へ来る。

胃の検査係：下剤をさしあげますので，すぐに多目の水と一緒に飲んでください。便秘気味であれば，錠剤を余分にさしあげますが，大丈夫でしょうかね。余分には必要ないですか？ (スーさんはコクンと首を下げる) そうですか。はい，それではこれですべての検査が終了しましたので，この検診表を受付へ出してください。ごくろうさまでした。

— バリウムが美味しくなかったのか，スーさんは不満気な顔をしたまま検診表を受付嬢へ渡した。

受付嬢：ごくろうさまでした。総合検診は午後1時過ぎになりますが，受けます？ どうなさいますか？

スー：受けます。

受付嬢：それでは午後1時までに控室に帰ってきてください。この番号札がスーさまの順番になります。なくさないように持っていてください。

— その後，スーさんはクリニックの外にある本屋へ行って時間をつぶし，予定の時刻前に控室へ帰ってきた。午後1時過ぎに「スーさま総合検診室119号室へお入りください」という館内アナウンスが流れた。ついにこのときがきたかとスーさんは石膏作りのカラスのように緊張しまくった表情で検診室へ入った。コンコンと嘴でドアをノックした。

医者：どうぞ，お入りください。

スー：お世話になります。よろしく，お願いします。

— スーさんは丁寧なあいさつをした。医者は，内心，恐れていた白衣ではなくて，黒衣であった。これでスーさん，少しは気持ちが落ち着いたようです。

医者：スーさんですね。検診を受けるのは今回が初めてです？

スー：はい。

医者：ざっと診たところ特別な問題は発生していませんね。ただし，今後のこともあって，注意すべき点が幾つかあります。

スー：へっ？ ありますか？

医者：はい。あるんです。それでは，検診結果に基づいて健康度を詳しく見ていきましょう。まず視力がかなり落ちていきますね。あなたの年齢ではまだ2.0はないと，ご馳走を探すのに苦労していませんか。

これでは不便だと思いますが。不便であれば、メガネを掛けるか、コンタクトを入れるか、どちらかをお勧めします。視力が落ちてご馳走を探せずに貧血をおこしている方もいるそうですから。聴力も基準値をかなり下回っていますね。これでは……。

スー：(話の腰を折り) ご馳走が手に入れやすいところに棲んでいるので、苦労はしていません。

医者：どこにお住まいです？

スー：はい、国道沿いにある「パチンコ百発百中」の看板の軒下です。夜11時頃までパチンコ屋のネオンサインが眩しいですね。そのせいで視力が落ちたのか最近、雄と雌を見分けるのが大変になりました。それから端細^{はしびそ}と端太^{はしびと}の区別もしづらくなりました。自分の仲間を見分けることが大変じゃあ、老眼になっちゃったかなあ。霧の濃い日にはなるべく外出しないようにしていますが。何かにぶつかりそうで……不安なんです。塙が国道沿いなので昼夜関係なく車の騒音でうるさいし、小さな虫の音も聴きづらくなってきました。昔は、騒音の中でもコウロギの羽音を聞き分けることができたのですがね。(小声で) 歳には勝てない。

医者：早いうちに眼科と耳鼻科で診てもらってください。肺活量は標準よりも少し低い程度なので、スーさんの年齢では心配することはありません。

スー：そうですか。心配ないですか。肺活量の検査は死に物狂いでしたが。吸って～！ 吸って～～！ 吸って～～～！ はいて～！ はいて～～！ はいて～～～！ 酸欠になるわ、涙は出るわ、そりゃあ必死で頑張りましたが、ずいぶん簡単な説明ですね。

医者：いえ、いえ、特に心配することはありませんから。大丈夫ですよ。次の心電図

も問題ありません。尿にもタンパクは出ていません。血便でもありません。空腹時の血糖値が高いですね。これは要注意です。エコーを診る限り腎臓、脾臓などはきれいですね。それから、これは肝臓のエコーですがまだら肝炎といって、ちょっと肝臓が疲れているようですね。でも、緊急を要することではありません。この程度であれば、食事と運動でなんとかできます。それからこれが胃のレントゲンですが、ここに小さな潰瘍がありますね。

スー：はい、それは20歳の頃からず～とあるんですよ。あの頃、精神的に苦痛を強いられた環境にいたのでイライラしたときなんかにはそこがピリピリしたこともありましたが、今じゃ普段は気になりません。消えてなくなるものなんですね。

医者：そうですね。小さいままで大きくなっているようでもなければ問題はないでしょう。この写真だと大きく見えますが、実寸は1センチくらいですかね。毎年、検診をしてチェックをしてください。現状では、何んら問題はないでしょう。次に血液検査ですが、B型肝炎のキャリアですね。

スー：はい、私の両親、兄弟はみんなキャリアです。私が生まれ育った地域はこのキャリアが多いそうです。生前、親父は喰い物が悪いんだ、とよく言っていました。

医者：そうですか。でも急激な運動をしたり、一気に大酒を飲んで肝臓に負担をかけなければ、ウイルスが暴れることもありませんのでね、心配することはないでしょう。ああ、そうかあ(思い出す)。肝機能を診る一般的な指標に GOT というのがありますが、この基準値は10から40で、スーさんは20ですね。もう一つ GPT の基準値も5から45ですが、これも16で正

常値の範囲内にありますからね。まずは問題ありません。血小板の数値が10.7で基準値が14.0から37.9なので小さいように思いますが、普通の生活をしている限りでは、これも問題ないですね。白血球は3.5から9.7が基準ですが、3.6なので少し低いですね。免疫力が下がっているようですが。これも要注意です。これではきっと乾燥肌を爪で掻くと赤くなるでしょう。

スー：はい、なります。特に、冬場に乾燥肌がつらいときもあります。

医者：そんなとき、今は補湿用のクリームが市販されていますので、ひどくなる前にそれを塗ってください。それから体重は今のところ問題ないです。肥満度を測るBMIは25.5ですが、この基準値が18.5から27.7なので、少し高いかなという程度でしょうか。よく聞くとと思いますが、メタボリックシンドローム、略してメタボといって内臓に脂肪が溜まると動脈硬化の危険性が増し、脳卒中や心筋梗塞などの循環器病を発症しやすくなっています。普段から体重の増減には気をつけてください。おへその高さで測る腹囲が85センチ以下であれば望ましいと言われています。中性脂肪とHDLコレステロールは正常値ですが、悪玉のLDLコレステロールが基準値をオーバーしてしまいそうですね。これも要注意。基準値は72から178ですが、スーさんは150ですね。基準値内にありますが、これは今のうちに何とかしないといけません。コレステロールについては体質から高い人もいますが、炭水化物や動物性たんぱく質などを喰べ過ぎると、溜まりやすくなります。血圧は正常値なので、このコレステロール値を下げるように心がけてください。メタボと同じように脳卒中や心筋梗塞の原因などあらゆる病気につなが

ることがありますのでね。コレステロールは薬を服用することによって下げることもできますが、生活習慣を変えるだけでも効果はあります。繰り返しますが、そのためには動物性たんぱく質を減らして野菜を多目に食べるとともに、1日に40分程度の運動をすべきだと思いますね。今は国道沿いにある「パチンコ百発百中」の看板にお住いでしたね？

スー：はい、10年前くらいから店の看板に付いている軒下に住んでいます。ここは雨風がしのげるうえに、近くにいい餌場となるゴミ箱があるんです。そのため森や山へ飛び歩かなくなり、運動不足であることは凶星だと思います。最近では隣街にいる友人を訪ねるのもおっくうになってきました。実は、100メートルほど飛ぶと息切れがしてしまうのです。途中の電線で一休みしてからでないと飛び続けられません。友人が言うには、私の羽は「カラスのぬれば色」ではなくて、くすんでいるそうです。羽には自信があったのですがね。ちくしょう！今の塹の近くに「酔いカラス」という飲み屋と「濡れカラス」というスナックがあって、ここが出してくれる残飯がまさにご馳走でして、焼きとり、豚肉、テンプラがあり、たまにイクラもいただいております。それに朝からアルコールをすすめる機会が増えました。どうも偏食ぎみの食生活になっていることは確かです。

医者：やはり雑食が一番いいですよ。ミミズやバッタを食べること、野ネズミを食べること、そして必ず木の実や菜っ葉を食べることです。これに加えて飛び遊ぶということですね。伝統的な食事と適度な運動をすればメタボの心配もなく、また生活習慣病にはならず健康体を維持できます。われわれの祖先はこれまでピンピンコロリで天寿をまっとうしてきました

たからね。病院ではなくて塹で仲間たちに看取られるのが最高の逝きかたですよ。ね。こうした検診は毎年受けることをお勧めします。健康度を測れるし、潜在的な病気を発見できることもありますのでね。ぜひ、来年も受診してください。私の方からお伝えすることは以上ですが、他に何か知りたいことやご質問はありますか？

スー：いいえ、ありません。

医者：そうですか。それでは終わしましょう。

今日はごろうさまでした。

スー：色々とうございました。お世話になりました。

— 出口の近くにいる受付嬢はスーさんに2週間後くらいに検査結果をご自宅へ郵送することを伝えた。スーさんは視力と聴力の衰え、さらに高目の血糖値とコレステロール値などを指摘されて、しよげながら塹へ向って飛び立った。

(未完)

付記。昔、カラスと人間はとても友好的な関係にあった。それが証拠に、♪ カラス なぜ啼くのかカラスは山に かわいい七つの子があるからよ……かわいかわいと啼くのだよ……かわいい目をしたいい子だよ ♪、と歌われたものである。その当時、カラスは昼間、野原や畑で精一杯遊び、夕方になると塹のある森の中へ帰っていった。子供たちは「カラスが啼くから帰ろう」と声を掛け合って家路を急いだものである。

いつの頃からか人間がカラスの棲む森の近辺にまで生活圏を広げた。そのためカラスの中には塹を森のもっと奥へ移すものもあれば、人間の作った歩道橋の下で寝起きをするものも増えてきた。そうした街中に棲むカラスはしだいに人間の生活リズムに合う行動をとるようになった。美味しい食事は人間が用意してくれるゴミ箱で摂ることができるようになった。毎日の食卓にテンブラ、刺し身という超セレブな一品がそろうゴミ箱もある。

もはや野原や畑でネズミ、ミミズ、バッタなどを食べることはなくなった。

ある日、カラスの集会が開催され、ひな壇に座る長老が人間に依存し過ぎている若いカラスたちに「もっと野性的に生きよう！ 食事は自然食品にしよう！」と問いかけた。豊かな食生活に慣れきった若いカラスたちは「今さら、この生活水準は下げられない！ 年寄りたちの食事は口に合わない！」とって猛反発をした。

結局、集会の成果といえば世代間ギャップを鮮明にただけであった。こうして野性味をなくした若いカラスたちはゴミ収集所の近辺でたむろすることになった。ご馳走の出る曜日もしっかりと学習してしまった。そして今や人間とカラスとの関係はゴミ箱周辺というピンポイントにおいてつねに戦闘開始状態にある。両者はかつての温かい関係を再構築することが困難な時代に生きている。

経済学でいえば、カラスと人間とは互いに外部不経済をかけ合ってきた。人間による森林破壊(農地の開拓、宅地の造成など)はカラスへの外部不経済(餌場や生活圏の縮小)であった。森を追われたカラスは餌場を求めて人間の生活圏へ入り込み外部不経済(騒音、糞、ゴミ箱への襲撃)を発生させている。一般的に害獣と呼ばれる(こう呼ぶこと自体、人間の驕りである)野生動物と人間との関係は人間の側に反省すべき点が多くある。

今では、嫌われもののカラスであるが、大昔にはカラスは神の使い(太陽神信仰)だったり、国のはじまりを助ける鳥として、多くの国の神話や伝説に登場する。日本であれば、『古事記』という神話に3本足のヤタガラスが神の使いとして登場する。日本サッカー協会(JFA)のシンボルマークも「3本足のカラス」が使われている。これは勝利の守り神という意図であろう。嶋田(2020, 9頁)を参照した。

筆者が勤務する大学のキャンパスでは、数羽のカラスをしばしば目にする。そんな彼ら／彼女らと学生たちとの交友をいつか書いてみたい。

参考文献。

『朝日新聞』(2014)「カラス食べる文化 特産品で守ろう」4月5日。

須藤克三(1972)『出かせぎカラス』童心社。

嶋田泰子(2020)『カラスのいいぶん 人と生きることをえらんだ鳥』童心社。

松原始(2013)『カラスの教科書』雷鳥社。